足立史談
第583号
2016年9月15日
足立区教育委員会
足立史談編集局
足立区立郷土博物館内
〒120-0001
東京都足立区大谷田5-20-1
TEL 03-3620-9393
FAX 03-5697-6562
〈28-308〉

もくじ

千北辰一刀流の源流、北辰夢想流について　1P
千柳館発行『PGSR = on ALBUM』　2P
四箇領二十一ヶ所と瓦大師（続き）　4P

千北辰一刀流の源流、北辰夢想流について

あさくら　ゆう

はじめに

江戸時代に流行した剣術のうち、世界中に広まっている流派がある。それが北辰一刀流だ。韓国では杉並区の玄武館が教え、かつて千住で灸治院を営んでいた千葉家が後援する北辰一刀流兵法道場はドイツに継承者を誕生させている。

しかし、その北辰一刀流の源流について、授かる免状には小野派一刀流中西派と北辰夢想流の合伝と記されている。中西派はいまも古武道協会にその名を連ねているが、北辰夢想流はその存在さえも幻ではないかと議論されることがある。

今回、はからずも宮城県加美町の畠山隆氏のご協力により、北辰夢想流の免状三巻に触れる機会を得たので、その一部を紹介したいと思う。

北辰夢想流巻物三巻（畠山隆氏蔵）

由来

北辰夢想流の存在は明治中期より編纂された『千葉周作伝草稿』（宮城県立図書館蔵）に記載が確認できる。それによると、荒谷村（現宮城県大崎市）久光源之丞氏の調査として、

現今荒谷千葉家ニ遺ルモノ左ノ如也
○北辰夢想流発元旦　一本
○同上　組　一本
○同上　印歌（承序）　一本

その許状には

北辰尊星―妙見菩薩―千葉吉之丞―桑折市左衛門（印）―宝暦二壬申正月十八日　小田嶋幸右衛門殿

とあり、追記で

当然、小田島家（不詳）ニアルベキモノヲ如何ナル故ニカ千葉吉之丞ノ後ニアリ

と記されている。この調査年代を窺うに、千住千葉家の戸主を千葉さなの養子、正にしていることから明治三十五年（一九〇二）以前であることが解る。

このうち印歌の承序において、千葉家の伝承が今の千葉家の歴史となることを知る上で引用されていることからその全文を掲出する。なお、この巻はその後、印歌（印可）の項となり、小田嶋幸右衛門に伝授したとされる。千住の由来も一説に「千葉住村」とあるように、北辰夢想流千葉家の歴史が今後の千葉氏研究に資すれば幸いだ。

北辰夢想承序

夫剣術為二肝要一事者治二国家ヲ一而成二安性ヲ一矣論レ時全レ即雖レ然不バレ有二神妙之極ニ一如レ何可レ得レ之哉于レ爰山上角之進迚村雨一流ノ剣術有二達人一予同流同門也所レ然彼レと仕合被二仰付一於テ二君前一上覧之砌彼ノ角之進打勝予其無念微二肖心一不レ得二止事一倩テ按一(二)事ノ情一予適得二人性一乍レ生二弓馬ノ家ニ一于レ楽為二打負一事武門恥辱所レ穢二家名一之也此上者不レ有三神明仏陀ノ得二加護ヲ一者再ヒ被レ呼二千葉某ト一事是不難哉亦先言不二堅固一者後世之恐レ嘲自余以来遂二世不犯一妙現神社参詣而懲テ二至心一捧二願書ヲ一礼拝崇敬百ヶ日雖諭レ更無レ得二其奉持一自尓己来於二社檀一乍レ唱二法号一令二通夜一尽ス二剣術御手練一所レ然正月十八日ノ夜真眠之内自二北方一童子来而告テ曰ク善哉々々汝祈誓之旨趣最深ク所レ感也猶懲二至心一可レ為二通夜一速ニ志願可レ満也霊験晏シ見と哉と北方の神童迫レ是給者不思議乎黒雲来而御姿者為レ上給自レ爾拝二北方一者空中破軍星赫然皓而所レ達レ拝之猶天地一同震動而壹ツ之火玉飛来轉リ枉ウ形勢不レ負二電光激スルニ一火曜日輪送而破軍星忽然シテ黒龍と現彼火玉見而捲上二是一上剣一炎吐飛掛者火玉者其光修乱而如シ二百千ノ雷鳴ノ一其在様膽魂失而魂モ崩難レ有拝内神龍右轉神火右左迫リ神龍ハ炎ヲ吐掛神火焱ヲ発シ飛ヒ枉ウ形勢物冷敷見レ之内神龍と二神火一共合躰而八頭ノ龍ト化

シ五組之乗リレ皆走リ給と見而夢者忽然と覚即チ九ニ拝於神殿一是併シ是社大志願成就之奇瑞也乎帰依ノ成レ思ヲ即予按ニレ是火玉と二黒龍一左右江巻争有様者如クレ水成ル故ニ見レ之得者入身得レ術ヲ亦八頭ノ見レ我ヲ壹ツノ得タリ二太刀組ヲ一亦自レ夫毎日百座ノ修二霊符ヲ一而恭敬尊究メ于レ然雖レ有哉頃モ六月廿八日夜半ニ到而社檀頻ニ鳴動而二童子現レ給イ託シテ曰ク汝不レ知哉我者是妙現之両童訪笑授果也汝信仰堪成故今授二与之一宣而星眼之伝二妙術一給予夢心地ニテ拝ハレ之何鹿走給而弊白包残ル猶皈依之成レ思ヲ自レ介己来三七日断食而捧二弊白一備テ二供物一金輪北斗之修シ二秘法一碎二肝膽ヲ一而尚為二祈誓一者三月十八日千日満スル夜ノ暁キ白髪ノ老翁忽然予現二枕本ニ一論而託メ曰ク善哉々々我者是北辰星王也汝深ク信カ故ニ今授二与之一悉ク二秘法之於大事一伝給畢内登天給拝二其尊究一者八輻金輪ノ具二足妙相一光明赫然而巳給と見得夢者覚夜ハ半明到難有哉瑞気涙絡レ仏二承二瑞夢一事不レ捨二給愚身ノ一念ヲ一事是全ク因二北辰尊星妙現大菩薩ノ加護一之也依而崇敬而レ之ヲ号テ北辰夢想流ト云爾今以人之因二厚望一傳ウレ之予ハ但大願成就之今レ知二徳ヲ而一己。

和歌

何廉に心のやミの雲晴と
てらさせ給ふ　千葉の星月

（後略）

（歴史研究家）

千柳館発行『PGSR = on ALBUM』
―明治四十五年　北千住発地方視察の思い出―

当館では、来年三月から花畑の千ヶ崎悌六に関する展示を行う。千ヶ崎悌六は、与謝野鉄幹・晶子夫妻と親しく交わり、足立区立第十三中学校で英語の教師をしていた人物である。展示に向けて、千ヶ崎家の資料を調査する中で、明治の足立に関する興味深い資料を発見したので、ここで紹介することにしたい。

千住には、柳下邦三・栄之助兄弟が明治三十五年に開業した千柳館という写真館があった（詳しくは、『足立史談』五五六・五六七・五六八・五七〇号参照）。この千柳館が発行したアルバムが千ヶ崎家文書の中に残されていた。

アルバムの名前は『PGSR = on ALBUM』で、B5版程度の横帳であり、一頁に一・二枚の写真が掲載されている。残念ながら、「PGSR」の意味はわからない。本書の冒頭には、編者柳下邦三のはしがきがある。読みやすくするため句読点を加えて、全文を掲載しよう。

北千住停車場

北千住出発

はしがき

同行ノ紳士淑女百三拾名、手ヲ携ヘテ、明治四十五年五月一日北千住ノ駅ヲ発シテ、地方視察ノ途ニ上ル。気候ハ温和ニ天気晴快ニ行ク々、皇祖ノ大廟琴平ノ奥社ヲ初メ、至ル処ノ神社仏閣ヲ奉拝シ、商工農事ノ視察ヲ遂ゲ、名所旧蹟亦残リナク賞愛シ、就中、瀬戸内海ノ横断、木曽路跋渉ハ全ク団員狂喜雀躍、遂ニ千弐百余哩ノ行程ハ十二日間ニ渉リ、只愉快ノ二字ヲ以テ

充サレ畢リス。(ママ)此快事、豈何物ノ紀念カナクシテ可ナランヤトアリテ、茲ニ本帖ノ綴製ト成リヌ。只憾ムラクハ、急製ノ際、撮影意ノ如クナラザルモノアルヲ乞フ、之ヲ諒セヨ。

編者誌ス

これによると、このアルバムは、全国の神社仏閣・商工農事・名所旧蹟を視察するため、一三〇名の大人数で、明治四十五年五月一日に北千住を出発し、十二日間にわたって視察旅行を続けた一団の記念のために作られたものであることがわかる。

アルバムの末尾には、参加した一二六人の名簿が申し込み順で記されているほか、北千住駅長・付き添い医師・付き添い看護婦がそれぞれ1名ずつ記載してある。写真を撮影した柳下邦三も参加者の中に名を連ねており、これらすべての合計は一二九名となる。はしがきに一三〇名とあるのと異なるが、これはきりのいい数字にしたのか、名簿に一名漏れがあるのか定かでない。

アルバムは、邦三が依頼業務の一つとして撮影したと考えるのが普通だが、邦三の名が申し込み順の位置にあるので、視察旅行に参加した邦三がたまたま撮影をすることになったのかもしれない。奥付には「写真師　千柳舘　柳下邦三謹製」とあり非売品と明記されているので、旅行参加者に配られたものであろう。実際、参加者の名簿には千ヶ崎源四(悌六の二代前の当主)の名がある。つまり、源四が旅行に参加していたから千ヶ崎家文書にこのアルバムが伝来したのである。

参加者の居住地の内訳は、別表の通りとなる。これによると、千住を中心に区内各所から多くの人間が参加していることがわかる。また、区内のみならず、東京・埼玉・神奈川などからの参加者も多くみられる。参加者の中には、千住の名倉謙三をはじめとした区内旧家関係者の名も多く見える。

次に、アルバムに載っている写真の内訳を列記する。

地区別参加者内訳

区　内	
地名	人数
千住町一丁目	1
千住町二丁目	9
千住町三丁目	4
千住町四丁目	2
千住町五丁目	5
千住町中組	24
千住町元二丁目	1
北千住駅前	2
西新井村元木	19
西新井村	3
渕江村	7
渕江村保木間	1
綾瀬村	1
綾瀬村五反野	1
江北村	2
花又（畑）村	2
合計	84

区　外（右へ続く）	
地名	人数
南綾瀬村	1
南綾瀬村上千葉	1
浅草区像潟町	1
浅草区田原町	2

区　外（続き）	
浅草区田町	1
浅草区仲見世	3
南葛飾郡大木村	1
鐘ヶ淵	3
神田区三崎町	1
北葛飾郡高野町	1
北多摩郡千歳村	1
北豊島郡板橋町	1
地方橋場	1
下谷区上車坂町	1
下谷坂本町	1
下谷龍泉寺町	1
千駄ヶ谷	1
東葛飾郡流山町	1
本郷区真砂町	1
本郷区森川町	2
本所区須崎村	1
本所区長岡町	1
南埼玉郡青柳	3
南埼玉郡蒲生村	4
南埼玉郡川柳村	1
南埼玉郡八幡村	2
南千住町	2
神奈川県	2
合計	37

・北千住停車場　・団員北千住出発　・熱田神宮　・山田駅の団員　・伊勢二見か浦　・伊勢宇治橋の集合　・伊勢大神宮御橋　・伊勢内宮　・奈良春日神社山門　・奈良三笠山の小憩　・奈良ノ鹿　・一向ノ乗船加茂川丸　大阪安治川口　・栗林公園ニ於ケル団員其一　・其二　・高松栗林公園其一　・高松栗林公園　・讃岐金刀比羅神社　・金刀比羅奥社　・琴平宮額堂　・大井川丸上甲板　・安芸宮島　・宮島の風景　・安芸厳島千畳閣及五十塔　・宮島千畳閣内　・広島市浅野泉邸　・広島城　・京都嵐山ノ風景　・京都清水舞台　・木曽の渓流　・昼のつかれ　・長野善光寺　・本願尼公　・実業視察団発起人及幹事

写真の内容からわかるように、かなりの範囲にわたって視察旅行を行っている。掲載された写真には「実業視察団発起人及幹事」といった表記も見られるが、具体的にどういった目的の視察だったのかは詳らかでない。あるいは、視察と銘打った親睦旅行だったかもしれない。また、発起人や幹事の名前も不明である。いずれにせよ、明治四十五年という時期に、足立区内の人々がこれほどの規模で視察旅行を行ったという事実は興味深い。

(郷土博物館専門員　佐藤貴浩)

四箇領二十一ヶ所と瓦大師（下）
―四箇領二十一ヶ所 霊場外の瓦大師―

小川政秋

四箇領二十一ヶ所の大師像（瓦大師）以外にも、同じ製法によると思われる大師像が存在する。

常善院（足立区大谷田一ノ三三ノ一五）大師堂内の壹番と札番無し（不明）の二体の大師像。壹番は興教大師と伝えられているとの事だが、興教大師像の手印は合掌ではなく両袖を組んで手印を隠しているお姿が一般的である。常善院は、興教大師を中興の祖とする真義真言宗であることから伝えるものと思われる。

柳野稲荷神社（足立区佐野一ノ一四）土地区画整理事業で改築し新しい弘法大師堂内に、阿弥陀如来（旧川端坊本尊か）を中尊とし、向かって左側に厨子に収められた大師像を祀り、右側に彩色された大師像が祀られている。

彩色された大師像の台座は大谷田常善院の札番不明の大師像の台座と同じ形状なので瓦大師と推定される。

大仙寺（草加市浮塚七四一）大師堂内の大師像は、荒綾八十八ヶ所の両河講により奉納された大師像で、お顔が違うが瓦大師と思われる。

西福寺（八潮市南後谷八六八）大師堂内の大師像も、衣に付けた筋が塑像らしく、瓦大師であろう。

大経寺（八潮市八條三八七七）の大師堂内の大師像は、顔形が全く他とは異なるが、手に五鈷杵を持っている大師像であり、大師堂内に安置されていた事から瓦大師と思われるが、昨年訪れた時には堂内に見当たらないので、先の東日本大震災で崩壊したと思われる。

下新田稲荷神社（三郷市高州一ノ二八九）硯大師と云われる向山寺の大師像（五番札所）が以前あったと思われる下新田稲荷神社の境内の大師堂内にも白い瓦大師がある。

西福寺（三郷市戸ヶ崎二ノ六二ノ一）瓦大師の近くに瓦屋さんが造った（習作）といわれる白い瓦大師像があるが、お顔は下新田稲荷神社の大師像によく似ている。

【向山寺について】（つくば市高見原二ノ一一ノ七）元松戸市松戸字向山にあったお寺である。松戸・金町・三郷・吉川等の地において、弘法大師の信仰の上に「守大師」と呼ばれ絶大な信徒支持を得ていたという高洲の「三弘大師教会」の開山主秀音の三女妙響を開山主とし、昭和四十八年につくば市へ移転した。

―つづく―

（葛飾区在住）

注記

この霊場は活動を終了しております。御朱印を頂く事も出来ません。霊場の存在すらご存知ない寺院も多いかと思います。

参拝の折は、ご迷惑にならぬようにお願いいたします。

常善院の二体の大師像
左：（壹番）は合掌している伝・興教大師像

柳野稲荷神社
彩色された像

大仙寺
両河（川）講による奉納

西福寺（八潮市）

大経寺

下新田稲荷神社

西福寺（三郷市）